

事業評価シート（平成23年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他 】 【協働： 館事業参加市民 】		
目的・目標		事業の概要	
学芸員の研究成果が特別展で公開され、市民の知的共有財産となっています。		学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数			単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館文化祭の開催日数				
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	150	150	150	150	
	実績	192	162	161		
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数			単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等				
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	20	20	20	20	
	実績	41	27	36		
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	38000	38000	38000	38000	
	実績	38062	32939	40612		
成果指標②	指標名	図録売上部数			単位	部
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	550	550	550	550	
	実績	561	822	886		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成23年度の主な取組と成果						
震災のため遅れた平成22年度の春期特別展「深海から生まれた湘南」に続き、夏期特別展「いつもとちがう散歩道」、冬期特別展「星々のみちびき」、春期特別展「平塚と相模の城館」を開催しました。夏期特別展は児童を主対象とした自然観察入門、冬期は星の道標というユニークな題材、春は城館というニーズの高いテーマの展示で、多数の来館利用を得ました。「博物館まつり」を「博物館文化祭」に名称変更し、博物館に集う市民が地域の自然・歴史情報を集積した活動成果を展示紹介しました。						
平成23年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	特別展は博物館の調査研究、市民との協働調査の成果を周知する機能を発揮しています。入場者数、図録販売数から、23年度の事業内容が高く評価されたことが明らかです。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	特別展は、見たい、知りたい、という市民の知的要求に、実調査に基づいた高い水準で応えています。また刊行図録は、限られた展示スペースを補い、高度な情報を提供して、市民に利用されています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 低
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	調査研究、とくに市民との協働による調査成果を踏まえつつ、展示や各種講座等を行うことは、地域の人とともに活動し、文化資産としての物や情報を蓄積する、地域博物館の使命と合致しています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	外注部分を館内製作に切り替えるなど制作プロセスを見直し、ランニングコストの軽減に努めました。調査から制作まで、プロセス全般に市民が学芸員とともに参加しており、効率化が有意義に行われています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析		<p>展示物制作にあたっては、コスト面からも展示手法を随時見直す必要があります。また、今後は一層の内容充実とともに、展示テーマのバリエーションを広げ、利用者層の拡大を図る必要があります。</p>		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成21年度 決算額	平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 予算額
事業内容		「相模川の水運展」などの特別展の開催	地質部門等の特別展の開催	生物部門等の特別展の開催	民俗部門等の特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,301	1,234	1,906	1,198
	一般財源	4,520	5,079	4,190	5,025
事業費 (A)		5,821	6,313	6,096	6,223
執行率 (%)		86.30	98.87	96.21	
内訳	職員 (人)	1.20	0.95	1.20	1.07
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.10	0.10
人件費 (B)		10,028	7,847	10,061	8,917
フルコスト (A+B)		15,849	14,160	16,157	15,140

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成25年度の取組方針	制作コストはすでに大きく節減された状況にあります。そのような中でも展示手法の工夫などにより、内容の一層の充実を目指します。同時に、イベントごとに利用者層や実施目的を意識して、多彩な特別展を実施することにより、利用者層の拡大を図ります。
課長コメント	博物館の特別展事業は学芸担当の調査活動の成果として、また市民との協働による活動発表の場として市民にもっとも期待されている事業です。さらなる充実、発展を目指す事業です。